

【気になる話題 ～動物からうつる身近な感染症について①～】

ヒトには従来から、微生物に対して自然に備わった抵抗力（免疫）があり、通常はこれらの微生物による病気にかかることは少ないのです。しかし、近年の地球の温暖化による気象変化や、国際的なヒトや動物・物の移動の活発化や、都市開発による住環境、生活様式の変化、またペットの多彩化を要因としてヒトと動物が接触する頻度は急速に増加しています。そのため従来は動物固有の、あるいはヒトにまれと考えられた病気がみられるようになりました。今回は、数回にわけてどのような病気があるのかについて紹介いたします。

イヌからうつる病気

イヌからうつる病気としては“**狂犬病**”がよく知られています。全世界では約5万人/年の死者が発生し、発症すると治療がなく非常に死亡率の高い病気です。ほとんどは野良犬に咬まれたことが原因ですが、ヨーロッパではキツネ、アフリカと南米ではコウモリ、北米ではアライグマ、スカンクなどからも狂犬病はうつります。日本では予防接種が普及し、また島国という地理的条件もあり、1950年代以降、国内での発生はありません。しかし、2006年にフィリピンに滞在中の日本人2名（京都府、神奈川県）が相次いで感染を起こしたことは記憶に新しい出来事です。

次に、聞きなれない病名で実態も不明なところが多いのですが、国立感染症研究所の調べによると国内では2002年以降で14名が感染したとされています“**カプノサイトファーガ感染症**”があります。これはイヌやネコの約半数の口の中に住みついている、カプノサイトファーガ菌という細菌が感染する病気です。

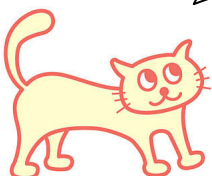


ネコからうつる病気

ネコは室内のみで飼育することは少なく、戸外で自由に生活する“地域ネコ”とよばれる飼育形態が一般化しています。そのため野良ネコ、鼠、鳥類との接触による病気の持込が多いと考えられています。例えば、ネコに寄生するネコ蚤に含まれるバルトネラ菌による“**猫ひっかき病**”や、ネコの口腔内のパスツレラ菌による“**パスツレラ症**”などが知られています。いずれも咬まれたり、引っかかれたりすることで傷口から菌が侵入し発病します。

稀ですが、ネコはトキソプラズマを持っている鳥類やネズミを捕らえて食べるため、時として便中にトキソプラズマを排出します。妊娠初期の妊婦が感染すると胎児に深刻な影響を与えることもあり、ネコの排泄物の処理には注意が必要です。

人間と仲良く暮らしたいニャン



イヌ・ネコに対しての注意点

- ・咬まれたり、引っかかれたりした後、体調に変化があれば早めに病院へ相談しましょう。
- ・触れあいや、排泄物の処理の後には、しっかりと手洗い、うがいに心がけましょう。

（保健環境研究センター 記）